

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570206789		
法人名	有限会社クラウド		
事業所名	グループホーム集い		
所在地	秋田県能代市字高花58-8		
自己評価作成日	令和元年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和元年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境の中で、利用者の皆様が安心して生活ができるよう心掛けていると共に、利用者の皆様がご自身で出来る事を見出せる支援が出来るよう努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームは、ショッピングモールが立ち並ぶ商業地域にあり、いつでも気軽に買物ができる非常に恵まれた環境にある。また、近くの高校の周辺を散歩しながら、高校生のスポーツなどの活動を見学することで元気をもらっている。ホームの造りは2階建ての一般住宅ということもあり、利用者が安心・安全に生活が送れるよう、階段昇降機が設置されている。看取りにも取り組んでいて、家族の希望があれば主治医、家族との話し合いを行い、可能な限り対応している。11月には、住宅街に新しいグループホームが完成し引っ越しする予定とのことで、新たに地域住民との交流が期待される。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を意識・共有し、利用者様がその人らしく安心・安定した生活を送れるような環境を提供出来るよう努めている。	職員会議で話し合う機会を設け、理念である「やさしさ」と「まごころ」を共有し、その人の入所前の生活リズムに合わせ、その人らしい生活が送れるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周囲が商業施設・学校ということもあり難しい。少し離れた所に自治会があるが協力を拒否される。	商業地であることから、地域との交流は難しい環境にあるが、近くにある高校から学校祭の案内を貰ったり、夏休みに学生のボランティア活動で利用者との交流が図られている。11月に住宅街に新しいグループホームが完成し、引っ越すことが決まっており、移転を機会に町内会や地域住民に積極的にアプローチし、新たな交流が生まれることが期待される。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	外部との交流に努力が必要。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度、ほとんど開催出来ておらず。	地域の町内会に参加を呼びかけているが、了解をもらえず参加メンバーが限定され、開催回数も3ヶ月に1度ということであまり少ない。今後、避難訓練時に合わせ会議を開催し、消防員への依頼が検討されている。	住宅街にできる、新しいグループホームに移る機会に、町内会や地域住民に認知症のグループホームをPRし、運営推進会議への参加や新たな交流が生まれることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて交流を持ち、相談事等を協力していただける体制をとっている。	運営推進会議に参加し、家族からの要望を聞いてもらったり、介護サービスの制度を説明してもらうなど協力関係が築かれている。また、制度上の不明な事などがあれば相談し助言を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	契約書に身体拘束の指針等を記載し、ホームの方針を説明を行い、理解していただけるよう努めている。	3ヶ月に1回身体拘束に関する研修を実施し、身体拘束に関する意識を高め、言葉使いなどで不適切な対応があった時には、互いに注意するなど真剣に取り組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	9月9日に高齢者虐待防止セミナーに、職員2名受講予定。受講後、内部研修を開催予定。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるような支援している	今まで必要とする利用者の方がいなかった為、学ぶ機会を持っておらず。わからないことは市役所の担当者に聞いている。研修の機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書・重要事項説明書を見ながら十分な説明を行い、質問があれば理解していただけるまで話し合うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、全く上がっていない状況。ご家族様が訪問した際、意見などを聞き出す機会を設けている。	意見箱が設置されているが、投函は殆ど無いことから、面会に来た時等に意見や要望を聞くようにしている。面会の少ない家族に関しては、定期的に連絡をとり、聞く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や休憩時間を利用し、話し合いや意見を交換する場を設けており、施設長、代表者に伝えている。反映されるまで時間が掛かる時もある。	職員会議で発言する機会があるほか、管理者が話しかけてくれたり、聞いてくれている。新しいホームの建設に当たっては、利用者が生活しやすく、職員が働きやすいホームにするため、職員の意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望については、なるべく希望に添えられるよう努めている。職場環境については代表者、施設長と話し合いが持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前年に比べ研修等参加できる環境を作り、実際参加できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修など通じて、個人的には情報交換の交流をとっているが、ホームとしては交流がほぼ無い。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の皆様が、不安や困りごと等を職員に気軽に相談出来るよう、コミュニケーションを大事にしている。また、ご家族様から得た情報を支援に生かすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	どんな事でも気軽に相談・話し合いが出来る雰囲気づくりに努めている。来所時にコミュニケーションを図り、信頼関係が持てるよう努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションをとる事により、その人に合った家事支援等を提供し、自分が必要とされているという意識を持っていただけるよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様とご家族様が疎遠にならないよう支援するよう努めている。行事等を通じて参加の呼びかけをしている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人等が気軽に訪問できるような環境づくりに努めている。定期的にドライブを通じて、希望があれば馴染みの場所に訪れている。	市内に住んでいる人や友人、親戚が面会に来てくれ交流が深められている。また、行きつけの美容院で髪染めをしたり、稲刈りが見たいとか、今まで住んでいた近くのソフトクリームを食べたいとの希望があれば、出かけて希望に沿えるようにしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等の把握に努め、職員が加わる事でご利用者様同士が関わり合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、気軽に相談できる関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望等を気軽に言えるような関係・雰囲気作りを努めており、ホームの規則を守りながら、できる限りご本人の意思を尊重している。	日常生活の中で、表情に変化があったりした時には、部屋などに場所を移し、悩みなどを聞くようにしている。また、さりげない会話から希望が出たりすることがあることから、会話の機会を多くし可能な限り希望に沿えるよう努力している。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご本人様やご家族様からこれまでの情報を収集し、その内容に基づいた支援に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様個人の状態を把握すると共に、日々の変化を把握し、職員間で共有する事に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様の希望を聞いたり、カンファレンスにて職員個々から見たご利用者様の状態をまとめている。また、ご家族様にはその月の状態をお伝えし、希望を伺っており、それらを活かしたプランを作成するよう努めている。	カンファレンスを行い、利用者や家族から出た要望をできるだけ取り入れる様にしている。また、職員から日々の生活の中での気づき等を出し合い、今後の支援の方向性について話し合い、ケアマネがまとめ介護計画が作成されている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に日々の様子や状態の変化を記入することで、情報の共有は出来ている。職員会議等で気づいた事を話し合い、プランに反映されるよう努めている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出等は定期的に行っているが、限られたご利用者様になっている為、見直す必要があると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に個々の主治医へ通院し、受診している。ご利用者様の状態に変化があれば主治医に相談し、結果をご家族様に報告している。治療が変わる時は、必ずご家族様の意見、判断をもらっている。	基本はかかりつけ医であるが、病院が遠いケースについては、家族の了解をもらった上で協力医療機関に変更してもらっている。受診した結果、変化があった時には家族に報告している。薬局については、内服薬の変更があった時に、受診結果を確認しながら説明してくれるなど連携が図られている。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護利用時に、ご利用者様それぞれの健康状態の変化を報告・相談し、必要があれば受診している。また、訪問看護師とは、24時間連絡が取れる体制になっている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療連携室の相談員を通じ、情報を提供したり、退院に向けての情報を受けたりしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についてはご家族様の希望を伺い、話し合いを持つようになっている。ホームで出来る事を納得していただいた上で、方向性を決め訪問看護・協力医の往診などで対応・支援している。	入居時に重要事項説明書等で説明している。看取りは、家族の希望があれば、可能な限りホームで過ごしてもらい、最終的には、家族や主治医を交えて話し合った上で決めている。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講座を定期的実施している。連絡網を作成し迅速な対応が出来るよう努めている。また、マニュアルを作成し、いつでも閲覧出来るような環境にしている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施しており、時間帯やホーム内の状況、職員人数等を変えて行っている。地域との協力体制は、中々難しい現状である。	年2回実施し、消防署からは1回立ち会って貰いアドバイスを受けている。訓練は様々な災害を想定し、毎回内容を変えて行っているほか、救急救命講習も行い、緊急時の対応に備えている。発電機の操作訓練を年1回実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人一人に対し、十分配慮しているが、共に過ごす時間が長くなると遠慮が無くなってしまい、声掛けが雑になってしまうことがあるので、職員全体で気を付ける必要がある。	他人に知られたくないことは、いかなる場所でも話さないようしている。トイレ誘導の際は、場所を移し声かけするなど、プライバシーに配慮した支援が行われている。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断が出来るご利用者様と出来ないご利用者様を把握し、出来る方に対しては、気軽に考えや希望を言える雰囲気を作り、引き出すよう努めている。出来ない方に対しては表情等読み取るよう努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の個々のペースで過ごせるよう努めている。外出などの希望があれば、業務の合間等、空いている時間を見て、出来るだけ希望に添うよう努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容については、定期的に専門職に来所してもらい身だしなみを整えている。また、個々の好む入浴剤や浴後にスキンケアクリーム等使用し、心地良く入浴出来るよう支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の誕生日や特別な日等は、食べたいものを聞き献立に組み込んでいる。また、旬の食材を取り入れ下準備等、ご利用者様とコミュニケーションをとりながら一緒にいき、意欲向上に繋がるよう努めている。	利用者から希望を聞き、献立に取り入れている。家族から旬の物を貰った際には、下ごしらえと一緒にいるなど、作る楽しみや食べる喜びを感じて貰っている。また、花見、敬老会や正月等特別メニューを提供し、季節を感じて貰っている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いており、毎食の摂取状況を全職員が把握し、また確認出来るようにしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、歯磨きを行っていただいている。自分で出来ない方に対しては、口腔ケア用品を使いケアを行っている。また、入れ歯の方に対しては、毎日夕食後にポリデントを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、それに合わせたトイレ誘導を行っている。	排泄チェック表をもとに定時排泄の支援を行っているが、声かけしないとトイレに行かない利用者がいることから、トイレ誘導の際には、他利用者に気づかれないように声掛けなど、プライバシーに配慮した支援が行われている。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄サイクルを把握し、便秘になる前に主治医や訪問看護師に相談している。また、毎日体操の時間を設け、個々の状態に合わせて行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態を見て、無理強いせず、1週間に2～3回入浴できるよう支援している。入浴を嫌う利用者さんもある為、声掛けや浴中の会話を工夫し、入浴を楽しめるよう努めている。	洗髪は職員が行い、洗身は自分で出来る範囲で洗ってもらっている。ボディソープやシャンプー、クリーム等は自分の好みの物を使用しているほか、入浴剤を使用し楽しみながら入浴できるよう配慮した支援が行われている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの昼寝や休息状況、夜間の睡眠状況を把握し、ゆっくり眠れるよう支援している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院ノートを作成し、お薬手帳と共に事務所に置き、いつでも確認できるようにしている。服用後の観察をし、副作用等気になることがあれば主治医や訪問看護師に相談している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の状況に合わせた役割をもって頂けるようし、充実した日々が過ごせるよう支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば散歩や買い物に出かけられるよう努めている。また、通院時を利用してドライブを楽しんでいる。	近くにショッピングモールがあることから、日用品等の買物の希望があれば、気軽に出かけることができる環境にある。また、高校が近くにあり、散歩をしながら野球などのスポーツ観戦などを楽しんでいるほか、季節を感じてもらえるよう、花見、海、紅葉、ツツジ、紅葉など観賞する機会を設けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族様の希望に応じており、一部の利用者様はご自分で管理・所持されている。ただ、金額に関しては、2～3千円にしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、いつでも電話ができるようにしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭のような雰囲気作りに努めており、ゆったりと過ごせるようにしている。また、リビングの壁に季節感のある張物や飾り物をしている。	一般住宅であることから、限られた空間の中でソファやテーブルの配置など、安心・安全に過ごせる生活空間作りに努力されている。また、衛生面にも配慮されていて気になる臭いなどは感じられない。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中リビングにて過ごされる方が多く、ゆっくりテレビ歌を聴いたり、利用者様同士で会話が楽しめるような空間作りに努めている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に、ご家族様に使い慣れた物の必要性を説明し、利用者様が安心して過ごせるような居室作りに努めている。	今までの生活で使用していた家具などを持ってきてもらい、家族や利用者の希望に沿えるよう配置されている。居室は明るく、家族の写真や花などが飾られ、安心して過ごせるよう配慮されている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室の場所を忘れてしまわれる方もおられる為、ドアに張り紙を貼付し、わかりやすいように表示している。安全を保つため、手すりを付けたり、居室内の整理・整頓に努め転倒などを予防している。		